

リレーエッセイ

職員自身もいつ自分に順番が回ってくるかが分からない、ドキドキのコーナー。職員も知らないあの職員の内側をのぞけると、職員間でひそかな人気です♪

「最近ハマっていること」

(出崎職員からのリレーテーマ)

もちろん食べることも大好きだけど、料理を作るのも嫌いじゃない。さらでは頻りに調理行事を開催していて、何を作るか考えるのも、どんな材料を注文するか悩むのもとっても楽しい。



つい先日、調理行事を行う日の朝、さら

へ出勤してわくわくしながらキッチンのドアを開けた瞬間、光がパッと差ってきて「あ、今すごく楽しい!!」と思ってしまい、なんだったら「楽しいよー」って叫んでしまいたくなるぐらいのハピネスでした!

仕事に来てるのにこんなのはちょっとアシなのですが、それでもこの前、お好み焼きを作ったときも、その前日から楽しすぎて楽しすぎて、小学生みたいに早く明日にならないかなーと胸を高鳴らせていたのはどうしようもない事実なのです。ということで、料理にハマってます!

きら 笹川義智

「心が温まる瞬間」

(渡辺(由)職員からのリレーテーマ)

県外の病院に勤めていた時のお話です。

20代の男性で、難病の為に両眼が見えない患者さんがおられました。「生きていても仕方がない」と悲観的でした。夜勤の時は、出来るだけ彼と話をするようにしました。手術を受けて、周りがうっすらと見えるようになり、「めがねをかけているんだね!」と分かるまでになりました。それと共に考え方も前向きになり、一安心でした。

退院されるときには「お世話になりました。あなたのことは一生忘れません。ありがとう。」と、ふるえる文字で一生懸命書かれた手紙は、一生の宝物で、大切にしまっています。

看護師という職業を選んでよかったなと思っています。

看護 阿部由美子

「私って実は…」

(山本(翔)職員からのリレーテーマ)

私って実は・・・という程でもないのですが、猫が好きです。それでも自宅や実家で猫を飼っているわけでもなく、猫カフェにも行ったことがありません。そんな私が触れ合っていたのは、実家のご近所さんが飼っている猫たちでした。夏場など玄関を開けていると、いつのまにか家の中に入っていたり、庭にちょこんと座っている姿がとても可愛らしかったです。社会人となり、地元を離れてから猫と触れ合う機会が少なくなってしまったので、とうとう猫カフェに行くか悩んでいる最中です。おすすめの猫カフェがあったらぜひ教えてください!

にこ 小林萌



笹川(義)職員からのリレーテーマは「冬の楽しみ」、小林職員からのリレーテーマは「家族との思い出」、阿部職員からのリレーテーマは「人生のピンチ!」です。次回もお楽しみに!

地鎮祭を行いました!

来春に開所予定である、生活介護事業所(仮称)第2きらの「地鎮祭」を9/13(水)に行いました!

厳粛な雰囲気の中、法人や工事関係者が出席し、工事の安全を祈りました。



お知らせ

以下の通り職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

異動 9月21日付
笹川 晴基 放課後等デイサービスにこ (若竹寮より異動)

入職 9月21日付
笹川 直子 放課後等デイサービスららん

退職
梅川 ひとみ

いとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日: 2017年10月

10月。木々の葉の色が変わり始め、秋が深まっていくのを感じます。これから紅葉の見頃の時期ということで、少し遠くへ出かけようと考えている方も多いのではないのでしょうか? * 綺麗な紅葉を見たり、秋風を肌で感じながら外を散歩すると、とても心地よいですね♪ 体調を崩しやすい時期でもありますので、風邪には十分お気をつけください。



インタビュー形式で
魅力をお伝えします♪

NASCへ行ってきました!

私たちの法人「みんなできる」が行っている事業「NASC(ナスク) 障害者のアートの世界を広げていく為に日々がんばってきているこちらの事業ですがNASC??という方が多いかもしれません…そこで今回は、編集委員がインタビューに行ってきましたので簡単にご紹介いたします!



(以下インタビュー)

★NASCってなんですか?

Niigata Art Support Centerの頭文字を取ってNASC(ナスク)と呼ばれています。芸術活動を行う障害のある方やその家族の皆さんを支援・推進することをやっている機関です。

★どんなお仕事をされているのですか?

主に、作品選びを行なっています。また、ワークショップから展示会を作り出す活動をしたり、アールブリュットの作品のネットワーク作りも行っています。作品選びでは各々の展示会やワークショップのコンセプトに合わせた作品を選択するようにしています。東海北陸ブロックと呼ばれる8県に、このような芸術活動を広げるために、「平成28年度厚生労働省障害者芸術活動支援モデル事業」としても選ばれ、県内外で推進活動を行なっています。今後の目標は全都道府県にこのような機関を作ることが目標です。

★そもそもアールブリュットってなんですか?

アール→芸術・ブリュット→磨かれていない(加工されていない)という意味のフランス語が語源です。教育や伝統などととらわれずに自由な発想と方法により作り出された作品のことを言います。

★皆さんへのメッセージがあればお願いします!

施設の方やご家族の方、大体の方が「うちには作品なんてありませんよ」と言いますが、そのような所にお宝(作品)が眠っているんです。ただの絵やただの工作も、作り出された背景や説明が加わることで作品に変わるので。角地さんが行なうワークショップのコンセプトは「自分が出したい!見せたい!作品」を展示しています。このような活動を通して新しい作品や作家さんの発掘をしています。

★アールブリュット展、今年もやりますか?

もちろん今年も行います。11/18(金)~23(木)までです。昨年度よりも期間は短いですが盛りだくさんでお届けしようと考えています。ちなみに3周年です!今年は妄想かるたの制作があったり身近にアールブリュットを体験して頂ける場所もございます。ぜひお越しください!



菅井さん 角地さん



インタビューを通して、同じ法人内でもこんなに面白い企画があるのか!と驚かされることが多く、編集委員の方がアールブリュットの世界にとっても魅了されてきました。日本中に、アールブリュットが広がるように・・・NASCの活躍に期待です!



夏休み中のレルヒの森での活動報告*

～ららの活動より～

もうすっかり秋になってしまいましたが、ららからは夏休みに行なった、新しい取り組みを紹介したいと思います。今年の夏休みは、ご利用者様の人数が多いうれしい反面、子どもたちが安全・安心に過ごすにはららのスペースだけでは狭くなってしまいました。そこで新たな取り組みとして、同法人である特別養護老人ホーム「サンクスレルヒの森」の方々に協力頂き、スペースを借用させて頂きました。

サンクスレルヒの森では、スペースをお借りするだけではなく、お花や野菜の水やり・車いすの清掃・洗車体験・封入作業・窓ふきや雑巾がけ等、普段中々出来ないお仕事体験をしたり、入居されている高齢者の方々とレクリエーションに参加させて頂きました。週に1回ご褒美DAYを設け、お小遣いでおやつを買いみんなで食べたのいい思い出です。また、高齢部の職員の方々に名前を覚えて頂いたり、何より入居者様やご家族に声を掛けて頂き、たくさんの方々に子どもたちを知って頂けたと思います。最終日には、施設長よりお給料としてケーキパーティの招待状を頂き、ららでケーキを食べてとびきりの笑顔で終わることが出来ました。

子どもからお年寄りまで世代を越えた“みんなでいきる”社会の実現の為に、今後も地域や人々との関わりを持ち、地域で暮らすたくさんの人達に子どもたちを知って頂ければと思います。

ご協力頂いた子どもたち・ご家族の皆さん、そしてレルヒの森の皆さんありがとうございました。



↑車椅子清掃



←レクリエーション参加



洗車のお手伝い→

スタミナお好み焼き作り！！

～きらの活動より～



この夏、きらのビニールハウスでは長ネギが一番すくすくと元気に育ちました。この長ネギをたっぷり使って、一緒にチーズとノンニク、しょうがも入れて、夏の終わりにスタミナお好み焼き作りを開催しました！

夏の疲れをふっとばすため具材も愛情もたっぷり、合計60枚のお好み焼きを作ったのですが、1枚残らずすべてきれいになりました。いつも以上に「おいしい！」という声も聞かれ、味の方も満足いただけました。

唯一の想定外は、材料が刺激的すぎたため、きら棟内あらゆるところにノンニクとしょうがのにおいが充満してしまったことです！でも、そんなにおいはひとつも気にせず、皆さんでおいしいお好み焼きを楽しむことができました！



夏休みおわって

～にこの活動より～

みなさんこんにちは。

今年の夏休みは昨年と少し変わって、週ごとのプログラムに則って色々なことに挑戦しました。アイスクリームを食べに行ったり、プールに行ったり、川遊びをしたりと、昨年以上に色々な利用者様も一緒に行えたように思います☆夏休み中の活動は大盛り上がりでした。中には「平日にもやりたい！」「作ったものを他の人にも食べてもらおうよ！」なんて声も……。是非、その声を実現するためにも、一緒にアイディアを出し合って、企画をして、形にして、と、そんな「想像する楽しみ」もプログラムに盛り込んでみたいと思う日々です☆



幸せの感じ方

障害福祉事業部りとるらいふ 短期入所ぷあん 課長補佐 松田清司

『働き方』について歳を重ねるたびに考える時間が多くなりました。

籍はいれたものの、結婚式をあげていませんでした。今回どうにか時間をつくり機会(?)あってインドネシアへ旅行を兼ね、現地で結婚式をあげました。会場の教会内では、日本人コーディネーターの行き届いた仕切りのもと、セレモニーは滞ることなく挙式を終えました。



路地裏、繁華街、観光地問わず、人相手、若しくは誰かに見られているという感覚が“ゆるい”印象と、やることやったから貰うものは“きっちり”貰う気持ちの良さも感じました。

ホテル近くのコンビニでは、カウンター内に5人ほどの店員さんが雑談…。2箇所あるレジも1箇所のみ開けているだけ。レジ待ちの列ができていても、お構いなし。日本では、きっと先輩や同僚から「レジお願い」「レジ開けて」とか言われているのだと思います。

食事に入ったレストラン(こちらで言う〇〇食堂みたいな)では、私達が食事をしている横で男女の店員さんが何か香料の小袋詰をしていました。またある場所では、「友達と二人でやりました。二人分のチップください」とはっきり言われた場面もありました。

・自分の役割、仕事を遂行、熟すことで人からの干渉を受けない。

・決められた仕事をする事で、貰うべき報酬(チップ含め)はキチンと貰う。

基本は求められた以上の事はしていないようですが、チップを出せばやってくれます。結局、「出すもの出せばやりますよ」「〇〇やりました、〇〇ください」非常にわかりやすく、貸し借りの関係がなさそうな所は気持ちよく感じました。ある意味誰でもできそうな、機械的な働き方に感じました。正直羨ましく感じ、これが生まれ育った環境であれば普通の営み、幸福感で否定される事は無いのだろうと。

これを読んだ皆さんは「そんなこと無い」等、様々な意見はあるかと思いますが。これは短期間の表面を見た感

想です。

自分自身組織の一員として業務をすすめる時、仕事から出来ることと、出来ないことは多分にあり、仕事でもやってはいけない事など、相反する事柄を判断しなくてはならない場面があります。現在の状況に限っていうと、求められている事のみをするだけでは、相手の期待に答えられません。福祉に限らずサービス業に携わる者としては、相手の期待に応えたいと思うのは当然の事であるように思います。今回、インドネシアに行き感じた事を振り返ると、働き方を考えるというより、仕事への向き合い方を再度考える良い機会でした。

自身の生活を見た時に、仕事は一日の中の1/3、残りの2/3は特別な事をしているかと言えば特別な事はしていません。自分が感じるキレイな物、景色をみる。自分が美味しいと思う物を食べる。自分が楽しいと思う事をする。できそうで出来ない、普通の事。私たちが日々支援の現場にいる中で、『普通』という言葉に口にするが、誰にとっても『普通』なのか、誰かからみて『幸せ』と感じているのかを、再度見直してみようと思いました。仕事は、身の丈と少しの背伸びが、自分と仲間を高めてくれる、日常生活はいつもと変わらない日常と、ほんの少しの贅沢が自分の気持ちを豊かにする。と、外から見たときに感じた感想です。

尊敬出来る先輩、頼りになる後輩がいることを幸運に思います。

でも、一番頼りになるのは“奥さん”です。

